

## 【番外編】相手の話を“聴く”～話せない？それとも聞く気がない？

思っている事が上手に言えない、質問されても答えられない、話せなくてモジモジしてしまう、話しかければ答えるけれど大勢のひとがいる場では何も話さない……。こんな感じで他人とのコミュニケーションが苦手な人もいますね。でも、視点を変えて、話を聞く側について考えてみると、「話を聞く方が待てない」「自分の気になることしか聞かない・聞こえていない」…こんな人もいるとは考えられませんか？

ある若者が言いました。「話下手な人の問題と言うより、相手に聞く気がないんじゃないかな」と。私たちは「聞く気がない」という言葉にドキッとしました。

自分の言いたいことを相手に伝えることは大切ですが、相手を一方的に納得させるということではなく、キャッチボールのように相手とやり取りすることがとても大切です。相手と何かを一緒に行きたい、相手が何を言わんとしているのかを知りたいという欲求がコミュニケーションを生んだのではないかと文化人類学では言われています。「共生」とか「グローバル」という行動や概念の根っこには、自分の知らない世界、異なる文化を持つ世界の人とも繋がりたい、どんなことを考えているのか知りたいという欲求があるのではないのでしょうか？

相手に興味をもって「何を伝えたいのだろう？」と考えることで相手とのコミュニケーションが生まれます。このことは親子の関係でも同じだと思うのです。

ハッキリと言わずにモジモジしている子供には、「例えばこんなことを言いたいのかな？」と尋ねてみるのも良いでしょう。または、「私はこんなこと思うのだけれど、あなたはどう思う？」と自分の考えを先に伝えて、相手の考えを聞くのも良いと思います。「私だって頑張ってる話しているのだから、あなたもハッキリ言わなきゃだめでしょ！言わなきゃ分からないでしょ！」と迫っては、子供は言いたいことも言えなくなってしまうでしょう。

子供の気持ちを察してくださいということではなく、気持を察したとしたら、それを言葉にして子供に確認してください。自分の思った通りに相手が思っているかどうかは分からないので、確かめてみる。このやりとりもコミュニケーションであり、人の話を“聴く”ということになります。コミュニケーションにおいては主張することも大切ですが、「相手の話を聴く」時間を持つように心がけたいものです。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」  
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1か月ごとの定期相談やすぐに実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。



森さん



墓田さん